

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 音楽 第40号

—中学校対象—

平成22年10月発行

### 四分野の相互関連を生かした中学校音楽科の指導

音楽科において、特定の活動に偏ることなく、歌唱、器楽、創作、鑑賞の四分野における指導内容をバランスよく配置し、それぞれの分野の活動を有機的かつ効果的に関連させて学習を進めることは、従前から求められている。

加えて、今回、学習指導要領で新設された〔共通事項〕は、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力を一層はぐくむために、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導内容として示され、各活動を相互に関連させる際によりどころともなる事項である。

そこで、本稿では、新設された〔共通事項〕を踏まえながら、四分野の相互関連を生かした学習指導の基本的な考え方を示し、その指導の在り方について、指導事例を交えて述べる。

#### 1 四分野の相互関連を生かした学習指導の基本的な考え方

四分野の相互関連とは、表現に鑑賞の活動を取り入れたり、鑑賞に表現の活動を取り入れたり、また、表現の歌唱、器楽、創作を組み合わせたりすることである。四分野を相互関連させることは、多様な音楽を

扱うことだけでなく、四分野の活動を幅広く偏りなく扱うことを意味しており、同時にいくつかの分野の学びをつなぐなど多彩な学びも求められているといえる。このことは、目標の「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して」に示されていることでもある。

四分野を相互関連させることで、次のような効果が期待できる。

- 学習に奥行き、広がり生まれ、それぞれの学習ではぐくまれる能力が互いに深くかかわりながら一層伸長される。
- 限られた時数の有効活用を図ることができる。

#### 2 四分野を相互関連させるための留意点

四分野を相互関連させるための留意点としては、次のことが考えられる。

- (1) 〔共通事項〕をよりどころとした指導計画の作成

〔共通事項〕は、音や音楽がどんな要素をもっているかを探る鍵といえる。教材とする音楽にどんな特徴があるのか、要素や要素同士の関連はどのように表れているかなど、教材の分析・検討の際に

〔共通事項〕に照らし合わせたり、どのような活動を設定するか、〔共通事項〕との関連を検討・確認したりしながら、〔共通事項〕を盛り込んだ指導計画を作成することが大切である。

(2) ねらいを明確にした題材の設定

題材の設定では、効果的に各分野の活動をつなぎ、総合的に何を学ばせたいのか、ねらいを明確にすることが必要である。また、その際、題材における教材、学習内容を生徒の実態に合わせて適切に選択し、配置することが大切である。

(3) 教材の見直し

これまでに扱った教材を他の視点から見直す。具体的には、多様な活動からのアプローチを検討したり、一般的な指導の型から脱却し、指導事項や〔共通事項〕に照らし合わせることで新しい学びの可能性を開拓したりするなど、教材研究を一層深める必要がある。教材となる音や音楽を今一度、しなやかな感性で見つめたい。

以上のことを踏まえ、次に指導事例を

示す。

3 四分野の相互関連を生かした指導

(1) 一つの楽曲から学びを広げる指導事例

図は、2年生における「ラヴァースコンチェルト」の歌唱から始まった学習を鑑賞や器楽、創作へと発展させた例を示したものである。

まず、混声二部合唱を通して多声的なつくりを楽しむ歌唱活動を行う。次にこの楽曲がアレンジにより生まれたことを確かめ、原曲の魅力味わう鑑賞活動に展開させる（展開1）。再び歌唱活動を行う際に、楽曲にふさわしいリズムを打楽器や手拍子などで工夫し加える創作、器楽活動へと展開させる（展開2）。この際、それぞれの活動においてポイントとなる〔共通事項〕を図の※のように明らかにしておくことが必要である。

さらに、この一連の学習の後、〔共通事項〕のテクスチュア、構成、形式をよりどころにして、J.S.バッハ作曲「フーガト短調」の鑑賞活動を位置づける。「ラ

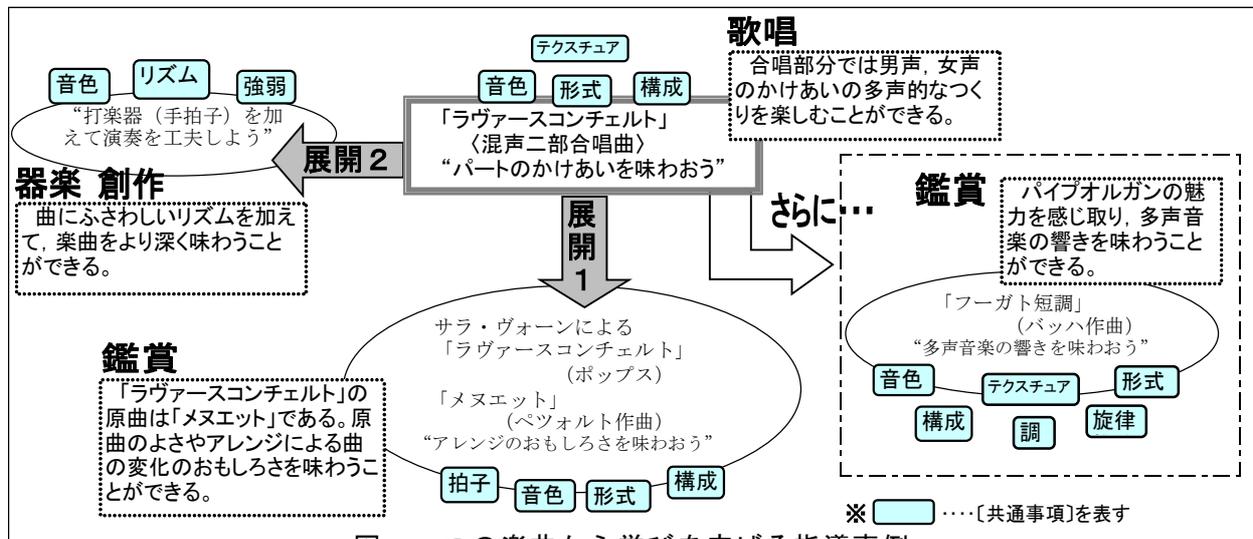


図 一つの楽曲から学びを広げる指導事例

ヴァースコンチェルト」の歌唱で男声、女声のかけあいを多声的なつくりとして学んだことを生かして、楽曲を聴くことにより、生徒は、旋律と旋律のからみ合いや、旋律が多声的に発展していくようすなど音楽を形づくる要素や音楽的な特徴に気付きやすくなる。

このように、一つの楽曲からいくつかの分野に学びを広げ、学び同士をつなぐことは、楽曲のもつ魅力を存分に引き出すと同時に、生徒は楽曲をより印象深く受け止め、味わい、それぞれの学習活動を相乗的に高めることにつながる。

## (2) 器楽に創作を取り入れた指導事例

表は1年生におけるアルトリコーダー学習の導入時における指導計画である。題材を「アンサンブルの楽しみ」とし、器楽に創作を取り入れた活動を展開している。

創作は、生徒が音そのものに向き合いながら、音を音楽へと構成していく体験ができる活動である。また、歌唱、器楽、鑑賞の分野で学んだ知識や技能を駆使して行う活動とも言える。創作を器楽に取り入れることで、アルトリコーダーの基礎的な奏法を身に付けるだけでなく、創作活動で音そのものに向き合うことにより音の長さ、高さ、強さ、音色などを感じようとする力を身に付けさせることにも有効である。

まず、教材の選択については、合わせて演奏する喜びや充実感が味わえ親しみのもてる教材か、また、学習のステップとして生徒の実態に合っているかを考慮して配列する。

次に、それぞれの学習活動における指導内容に対応する〔共通事項〕を明らかにする。このことで、それぞれの学習活

表 題材「アンサンブルの楽しみ」指導計画

教材の価値、生徒の実態における有効性を考慮して選択し、配列する。

指導内容に対応する〔共通事項〕を明らかにする。

時	教材	形態	学 習 活 動	指導内容	〔共通事項〕	
					ア	イ
1	アメージンググレイス	一斉 個人	○ 主旋律を演奏する。 ○ 運指やタンギングを確認する。	器楽イ	音色、リズム、速度、旋律	拍、拍子、フレーズ、音階、調、動機
2	千の風になって	グループ	○ コードを調べ、根音を用いて対旋律を創作する。	器楽イ 創作ア、イ	音色、リズム、速度、旋律、構成	
3	千の風になって	グループ	○ 対旋律を創作する。 ○ パートを選択し、各班でアンサンブルに取り組む。 ○ 主旋律と合うか試してみる。	器楽ア、イ 器楽ウ 創作イ		
4	千の風になって	グループ	○ 創作した対旋律を見直し、修正する。 ○ 曲のイメージに合うように演奏を工夫する。	創作イ 器楽ア、イ 器楽ウ	音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成	
5	アメージンググレイス 千の風になって	グループ 一斉	○ 全体の響きに気を付けて演奏する。 ○ 相互発表を行う。	器楽ア、イ 器楽ウ 鑑賞ア		

(鹿児島市立紫原中学校宮之原せつみ教諭の実践例を参考に作成)

動の中で、どのような能力をはぐくむかを明確にすることができる。

このような器楽に創作を取り入れた指導において、以下のような生徒の姿が見られた。

○ 対旋律を創作し、アンサンブルに加えることで、グループ毎に工夫を凝らした演奏を行うことができた。

創作では、楽曲に付されたコードの根音を用いるなど、あらかじめ用いる音を限定し、また、指導者がいくつかのリズムのパターンを示すなどした結果、生徒は容易に音のつながりを試すことができた。グループ内で試行錯誤しながらつくりあげた対旋律を加えることで、単旋律の演奏では味わうことのできないハーモニーを楽しむことができた。

○ 創作した対旋律を見直し、修正する活動において、生徒は音楽の諸要素に気付いたり、自分たちの演奏のイメージを広げたりすることができた。

学習活動における指導内容に対応する〔共通事項〕を明らかにしているのので、生徒にどんな音楽の諸要素に気付かせたいか、どの要素に着目して演奏のイメージを広げさせるかなど、指導にあたっての助言がしやすい。教師の助言を受け、生徒は、演奏を通して気付いたこと、感じたことを基に、より曲のイメージに合う演奏にしようと対旋律のリズムや音の長さ、強弱などの修正を行った。グループ内では、生徒が個々の思いや考えを積極的に伝え合う姿が見られ、創作した対旋律を見直し、修正する活動は、生徒同

士のコミュニケーションの場としても有効であった。

○ 生徒が自ら担当するパートを選択し、グループ内で担当する人数を工夫するなどして、積極的なアンサンブル活動を展開することができた。

生徒が、表現方法や表現形態を自ら選択できる場として、個々の技能に合わせて担当するパート（主旋律、創作した対旋律、更に実際ではバスリコーダーを使用するパート）を選択する場を設定した。これは、生徒の個性をより生かした音楽活動を行う上で効果的である。ここでは、すべての生徒が積極的にアンサンブル活動に参加しており、仲間との結びつきを感じる音楽活動を展開することができた。

この活動は、他の楽曲でも実践が可能である。生徒の実態に応じて、オブリガートを創作するなど更に発展させることも考えられる。

四分野の相互関連を生かした音楽科指導を進めることは、特定の活動や曲種に偏らない多様な音楽活動を行うことにつながる。生徒の多様な実態を踏まえた内容の構成や題材の設定、また、適切な教材の選択と配列などに配慮した指導計画の作成が必要である。

豊かな情操を育む芸術教科として、生徒の感性を高め、心に響く音楽の授業を展開していただきたい。

#### －参考文献－

- 文部科学省『中学校学習指導要領解説 音楽編』平成20年
- 原田徹編著『中学校新学習指導要領の展開 音楽科編』2009

(教職研修課)